

# アフリカで植栽

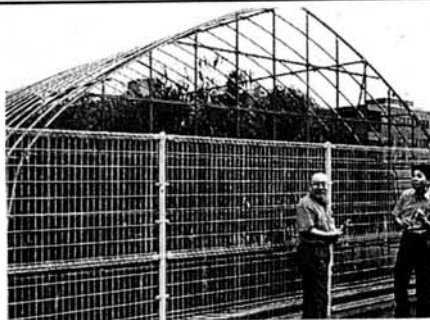
## 筑波大 ユーカリ品種改良 緑化を支援

筑波大学は15日、アフリカ開発銀行(A.F.D.B)を通じて、乾燥地でも育つ遺伝子を組み換えたユーカリの植栽を支援する」と発表した。同大で開発した遺伝子組み換えユー

カリは塩分濃度が高い水でも栽培でき、アフリカなどの乾燥地帯への緑化に役立つという。今後、アフリカの各国から技術者を招き、植栽地などを検討する。

乾燥地帯に強い遺伝子組み換えユーカリは筑波大と日本製紙などが開発。ユーカリの中心の水分が流出しないよう土壌細菌の遺伝子を組み込んだ。水が少ない地域や、通常では植物が枯れてしまう高い塩分濃度の水でも栽培できる。海水の塩分濃度(3・3

%)の9割近い濃度の約3%の塩水でも生育可能という。筑波大は2005年からキャンパス内の隔離圃場で栽培試験をしていた。ユーカリは生育が早く、チップ化すれば製紙原料のパルプに加工できる。アフリカの砂漠化進行地帯での緑化、地球温暖化につながる大気中の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)吸収のほか、産業振興にも役立つと期待している。筑波大学は08年5月に人材育成などを目的にA.F.D.Bと覚書を締結。今年5月にA.F.D.Bから耐塩性・耐乾性に優れたユーカリの植栽について支援要請を受けた。



遺伝子組み換えユーカリの屋外栽培施設 (15日、つくば市の筑波大学)

乾燥地帯に強い遺伝子組み換えユーカリは筑波大と日本製紙などが開発。ユーカリの中心の水分が流出しないよう土壌細菌の遺伝子を